

オモニ主日  
説教

# 家を建ててくださる主

<詩編127編>



曹恩注 牧師 (宇部教会)

「家庭」は美しい共同体であります。

「家族」ということだけで、その家庭に愛と配慮が満ち溢れるとどれほど嬉しいでしょうか。しかし現実はそうではありません。神さまはこのような人間の本性を知っておられ、十戒を通して語られました。第五「あなたの父母を敬え。そうすればあなたは、あなたの神、主が与えられる土地に長く生きることができます。」十戒の中で祝福と肯定的な文章で記されている戒めは第4と第5のみです。他の8つの戒めは「してはならない」という否定的な文章で記されています。この二つの肯定の戒めが十戒の真ん中に位置しているのは偶然でしょうか。多くのクリスチャンは、第4. 安息日を聖別して守ることについては素直に受け取り、あまり不満はなさそうです。しかし十戒第5については、少なくないクリスチャンが納得できない場合があります。特に親から愛されなかった人や親から心傷つけられた人には、十戒第5は祝福の御言葉として受け入れることが難しいことではないでしょうか。彼らに「家族」は敏感な主題となります。

神さまはどうして、「あなたの父母を敬え」という戒めを人々にくださったのでしょうか。二つのことを考えられます。

まずは、家庭という共同体の「美しい秩序を保つ」ためです。そして次は、父母を敬えることによる「自己克服」と共に、高慢から離れさせるためであります。エデンの園で、アダムとエバは創造主である神さまとの秩序正しい良い交わりのために、彼らが先ず学ばなければならなかったのは神さまの御言葉に従うことでした。「善惡の知識の木からは決して食べてはならない」この御言葉に従っている時には「良しとされる」日々でした。その家庭は幸せに満ち溢れました。

しかしアダムとエバは「神のように……なる」という蛇の誘惑に惑わされ、高慢な心が生じました。創造主と被造物のその家庭に秩序が崩れた瞬間でした。その結果、「良しとされる」家庭になることはできませんでした。

家庭には秩序がなければなりません。親子の良い関係、良い秩序は、上下関係として理解することではなく、お互いの「存在価値」を認めることから始まります。この世のすべての親も、この世のすべての子も皆神さまにかたどって創造されたからであります。すなわち、「家庭」は神さまの御計画、神さまの主権であります。

詩編127編を通して、親子の関係、人の「存在価値」を共に考えたいと思います。詩編127: 3 「見よ、子らは主からいただく嗣業。胎の実りは報い。」この御言葉は1節と同じ意味を持っています。127: 1 「主御自身が建ててくださるのでなければ／家を建てる人の労苦はむなしい。主御自身が守ってくださるのでなければ／町を守る人が目覚めているのもむなしい。」家を建てるということは、物理的な意味だけではありません。家庭を堅固にするという意味があります。その家庭に家を続く後継ぎがなければたとえ、良い土地に立派な家を建ててもその家庭に意味が無くなります。

4節「若くて生んだ子らは、勇士の手の中の矢。」矢は、矢だけではその威力がありません。しかしその矢が勇士の手の中にあると、矢としての威力は現れます。同じように勇士の手に矢がなければ、その勇士は普通の人には過ぎません。矢を持ってなければ勇士であることが分かりません。この御言葉から分かるように、親子の関係は互いにこのような「者」であることを教えられています。

私たちは安息日を決めることができないように、親が子供を、子供が親を選ぶことができません。家族、家庭は神さまの主権で建てられたのであります。家庭を与えてくださった神さまを畏れる信仰そして父母を敬う心の姿勢を持つことが家を建ててくださる神さまから良しとされる信仰の歩みではないでしょうか。

このような家庭は、彼らの働きが空しくならないように神さまが守ってくださり、その家に安らぎを与えてくださいます。(2節) 神さまを畏れる信仰、父母を敬う家庭に与えてくださる神さまの祝福の御言葉は詩編128編です。

「いかに幸いなことか／主を畏れ、主の道に歩む人よ。あなたの手が勞して得たものはすべて／あなたの食べ物となる。あなたはいかに幸いなことか／いかに恵まれていることか。妻は家の奥にいて、豊かな房をつけるぶどうの木。食卓を囲む子らは、オリーブの若木。見よ、主を畏れる人はこのように祝福される。5. シオンから／主があなたを祝福してくださるように。命のある限りエルサレムの繁栄を見、多くの子や孫を見るように。イスラエルに平和。」(詩編128: 1 ~ 6)

家庭を与えてくださった神さまを畏れる信仰によって神さまを喜ばせる信仰の歩みとなりますよに願っております。

## 韓日対照讃頌歌販売



韓国的新讃頌歌版です。交読文も韓日対照で掲載されています。  
●B6版変型・1483ページ  
●価格: 2,500円  
(消費税・送料込み)  
※お求めは総会事務所へ

## 韓日対照聖書販売



各ページの左に韓国語(改革改正訳)、右に日本語(新共同訳)が掲載されています。  
●A5版変型・1760ページ、革製  
●価格: 4,000円(消費税・送料込)  
※お求めは総会事務所へ

第57回総会

## 第3回常任委員会開催 定期総会の日程、場所、主題などを確定

第57回総会期第3回目の常任委員会が、2025年4月22日（火）Zoomによるオンラインで開催され、常任委員25名の中、23名、特別委員長2名が出席して各種報告や案件審議などが行われた。

審議され、決議された主な献議案は以下の通りである。

- (1) 前総会神学校と西新井教会との「共同委員会」設置の件を第58回定期総会に上程すること。
- (2) 総会憲法規則集の発刊の件は、変更などを補完して総会ホームページに上げること。憲法/規則集は憲法改正後に発刊することとした。
- (3) 信徒委員会の準委員補足の件（崔日承長老）を承認。
- (4) 新居浜グレース教会接地土地交換を承認。
- (5) 在日大韓基督教会「宣教120周年」（2028年）の準備委員会組織の件を第58回定期総会に上程すること。
- (6) 総会規則（憲法）変更の件（牧師/長老視務延長）は継続審議、また各地方会の意見などを聞き入れて次回の常任委員会に草案を作成し、第58回定期総会に上程すること。
- (7) 第58回定期総会を「収穫のために働き手を送ってください。」（マタイ9:37～38）との主題のもと、2025年10月12日（主日）18:00～14日（火）12:00、福岡教会で開催することを確認と承認。
- (8) 次回常任委員会は2025年9月16日（火）10:30、大阪KCCで開催、第58回定期総会に上程する予算/決算のために臨時常任委員会を10月7日（火）18:30オンラインで開催すること。（下の写真は開会時の出席委員）



西南地方会

## 崔日承長老将立式挙行 博多教会で初の長老として将立

2024年9月15日（主）午後、博多教会において崔日承長老将立式が執り行われた。堂会長の尹善博牧師の司会によって開会された1部の礼拝は、金聖孝牧師の祈祷、李相勳牧師が「神の御心にかなう教会」（ローマの信徒への手紙12:1-8）という題で説教をした。

2部の長老将立式では、辛治善西南地方会会长の司式により誓約、按手祈禱で執り行われた。高文局長老、金定明長老より勧めの言葉があり、朴在徳長老、許伯基牧師より祝辞が述べられた。

崔日承長老の答辞があり、崔正剛名誉牧師の祝禱により将立式を終えた。約90名が集い、神の祝福の中に語り合い励まし合った。

この度博多教会の初の長老として将立された崔日承長老は、1967年、崔正剛牧師の長男として日本で生まれ、1968年福岡教会において金徳成牧師より幼児洗礼、1986年熊本教会において入教、2004年から博多伝道所の執事として仕えてからこの度博多教会の視務長老として仕えることになった。

中部女性会

## 第65回定期大会を開催 岐阜教会で代議員24名中23名出席

去る4月8日（火）、岐阜教会にて中部地方教会女性連合会第65回定期大会が4教会の代議員24名中23名の出席で開催された。

開会礼拝は、高誠牧師（岐阜教会）により、「神の国のために働く者」（コロサイ人への手紙4章11～12節）という題目でメッセージ、蔡銀淑牧師（大垣教会）による聖餐式の後、高誠牧師の祝祷をいただいた。

金恩淑会長の開会宣言の後、来賓の紹介（高誠牧師、安池愛師母、石橋真理恵全国教会女性連合会総務、蔡銀淑牧師、李珍容牧師、羅鉢子師母）を紹介して開会式を終え、岐阜教会から用意された美味しい昼食を分かち合った。

昼食後に議事を始め、前会議録、委員会報告は書面による承認の後、各部報告、各教会報告、会計報告がなされた。次回の定期大会の場所は第65回第1回委員会で確認として議事を終了した。

閉会礼拝は、石橋真理恵全国女性会総務により、「献身」（使徒言行録2章44-47節）という題目でメッセージ、蔡銀淑牧師による祝祷、会長の閉会宣言によって定期大会を終了した。

久しぶりの岐阜教会への訪問であったが、会堂を大切に、丁寧に使われていると感じた。そして、初参加の代議員があったことは喜びであり、全てを整えてくださった神さまに感謝する。

（報告：兼松峰代書記）



西部女性会

## 第38回定期大会を開催 5教会から代議員15名が出席

西部地方教会女性連合会第38回定期大会が4月10日（木）11時より神戸教会で開催された。今年は5教会から代議員15名、陪席7名が出席した。

開会礼拝は尹豊子副会長の司会で韓承哲牧師（神戸東部教会）から「ダビデの祈り」（サムエル記下7:18-29）のメッセージがあり、続いて聖餐式と共に与った。

梁律子会長の開会辞のあと開会宣言がなされ、出席者と来賓の紹介の後、石橋真理恵伝道師（全国女性会総務）の祝辞があり、梁榮友牧師（KCCJ総会長）からの祝辞を梁律子会長が代読した。

神戸教会女性たちの美味しい昼食をいただいた後、議事に入った。総括報告と決算報告などがあり次年度予算案が承認され、2025年度活動方針案が確認された。

閉会礼拝は梁律子会長の司会で、韓世一牧師（神戸教会）から「模範になられたイエス様」（ヨハネ13:12-17）のメッセージがあり、祝祷をもって閉会した。

受難を前に弟子たちの足を洗ったイエスキリストにならい、お互いに仕えていく西部女性会であり続けたいと願う。

（報告：崔美恵子）



東京教会

## 青年部が能登半島被災地ボランティア活動

東京教会の青年部では、能登半島地震被災地のための祈りを続けていく中で、実際に現地に行き支援活動に参加したいという願いが生じた。そんな中で、社会委員会を通して被災地ボランティアの募集を知り、少しでも多くの青年が参加できる3月20日（春分の日）のボランティア活動を計画するに至った。

準備は2月初旬から始まった。交通費を抑えるために教会のワゴン車を使うことにし、高速道路の費用と移動時間を調べた。また仕事をしている青年が多いため、3月19日（水）の夜（仕事後）に出発して能登半島を目指す日程を組みざるを得なかった。かなりハードな日程だったが、6名もの青年が参加を申し出てくれて、具体的な準備を進めた。

私たちが今回訪れたのは石川県の七尾市だった。七尾市には民間災害ボランティアセンター「おらっしゃ七尾」があり、地域コミュニティーと緊密に連携して支援活動を進めている。私たちもまずは「おらっしゃ七尾」の窓口を通してボランティア活動の申し込みをし、保険の加入方法や詳しい活動の流れなどを知ることができた。また、前もって「災害ボランティア車両」として登録し高速道路通行証明書を発行することで、往復の高速道路料金が無料になる制度も知ることができた。

出発の日、仕事を終えて教会に集まつた青年たちと聖書の默



想（フィリ2:4-5）の時間を持った。「キリストの心」に倣いたいという思い、「他人のことにも注意を払う」という言葉の意味をそれぞれの青年たちが自分の言葉で語り合つた。

20日活動日の朝、移動の疲れがあったが、ボランティアの受付をし、日本全国から集まつた他のボランティアの方々と顔を合わせ、それぞれの活動現場（依頼をされた被災者の方々の名前）を知ると改めて「できることを精一杯やりたい」という思いになつた。

3月時点での主な支援活動は、公費解体が決まつたお宅の片付け（ゴミの分別）作業だった。それぞれの家には住んでいた人の思いがあり、物を丁寧に扱うこと、また具体的な七尾市のゴミの分別方法を教えてもらい、作業を始めた。

午前10時から午後4時まで約6時間の作業の中で、依頼者の方と直接話ができることは被災地を知る貴重な機会となつた。震災によって壊れた自分の家や地域社会への思い、ボランティアに参加している私たちへの感謝と気遣いの言葉などは、何よりも心に残つていて、東京に戻つた今でも青年たちと振り返り続けている。

実際の支援活動はたつたの6時間だったが、準備と帰つてからの振り返りを含めて、大変意味のある時間だつた。ありがたいことに、参加した青年全員からまたボランティア活動に参加したいという声があつた。これからも能登半島地震の被災地に注目し、具体的な支援を模索し続けたいと思う。形成のため関西地方会を中心に設立されて以来今日に至つてゐる。

(報告：金聖泰)

(2月11日～12日、福岡教会で行われた全国教会女性連合会聖書セミナーの主題講演の要約です。)

## 全国教会女性連合会 「打ち碎く女性、目覚める教会」

●女性の経験から聖書を読み直す。～マルタとマリア、超越と連帯～ ルカ10:38-42

講師：崔素英牧師



### 1. 女性たちが直面した壁、越えられた壁

教会女性は常に教会共同体を救う存在でした。私たちはその証拠を婦人伝道者たちの人生で確認でき、私たちの祖母、母、そして私たち自身の人生を通じてもよく見られます。

そして、教会女性たちは常に壁を乗り越えた人々でした。女性に名前を与えない社会で「自分の名前」を持つとした女性たち、女性たちに許されなかつた「学び」のために隣の外に出て行った女性たち、そして、小さくされた人々にまず手を差し伸べ、共に苦しみの場に立ち、「神の正義」を叫んだ女性たち。しかし、教会女性たちの献身と努力は忘れられやすく、いつも孤独で、女性同士の葛藤と嫉妬によって、その指導力が貶められるのが常でした。

### 2. マルタとマリアの話

本文を読む時、大部分は二分法的に解釈します。よくマルタは積極的に奉仕し実践する信仰型で、マリアは謙遜に神の言葉を默想し祈る信仰型と解釈してきました。時にマリアが強調されたり、マルタが強調されたりもしましたが、プロテスタントの伝統ではたいてい、「良い方を選んだから取り上げてはならない」というイエスの言葉によって、マリアの信仰を強調し、マリアの方が良い判断をし優れていると考える場合が多かったです。

しかし、姉妹を分離し優劣をつけ、一方だけを良いと解釈してきた慣習が果たして正しいのでしょうか？ 言葉をその時代の慣習に照らして深く默想し理解すれば、私たちはマルタが越えた禁止された壁を、またマリアが越えた禁止された壁を発見することになるでしょう。女性に禁止されていた壁、それが社会的な慣習や制度や律法であれ、あるいは女性自らが内面の傷によって持つようになった壁であれ、壁を越えるのは「超越」、すなわち境界を越えることです。

### 3. マルタの超越

本文の出来事が起こつたのは「マルタの家」です。マルタは「女主人」の役割をします。ヨハネ11章、12章では、マルタがラザロの姉だと言っています。男兄弟がいるにもかかわらず、この家の女主人、イエスを自分の家に「迎え入れて」もてなす主体はマルタです。イエスの時代のユダヤで、女性は一つの家を代表する人にはなれませんでした。韓国社会でも幼い息子や孫が家族の代表、戸主となっていた「戸主制」が廃止されたのはそれほど昔のことではありません。（4面に続く）

マルタは2千年前にこの壁を越えた人でした。

また、マルタはイエスに積極的に声をかけ、要望を尋ねます。12世紀のラビは、自分の家族ではない女性に話しかけることを禁止しました。ところが、女性が先に先生であるイエスに話しかけるなんて！しかもマルタが「自分の仕事(work)」と言う時、ギリシャ語「ディアコニア(diakonia)」は服従的な奉仕ではなく権威的な働きを意味します。使徒1:25でマティアがくじで引かれ「ユダが捨てて行ったこの奉仕(ministry, diakonia)と使徒職」を任せます。男性に与えられていた役割をマルタが引き受けたということです。私たちは、マルタの主体的な話しかけと働きでマルタの「主体的な指導力」、「公的に仕える指導力」を知ることができます。

ヨハネ11章でマルタは弟のラザロの病状が危うくなるとイエスを急いで探します。ラザロの死後、イエスが到着すると、マルタはイエスを迎えて、死と復活、永遠の命について対話します。そしてイエスを、「メシア、生きておられる神の子」(ヨハネ11:27)と宣言します。この大胆なメシア宣言は、他の福音書が記録したペトロの宣言と同じです。ペトロがこの宣言でいわゆる「鍵」、つまり教皇の守衛権を受けたとすれば、マルタもまたペトロのような使徒であり指導者であると見なされたことが推察できます。

#### 4. マリアの超越

2世紀のユダヤ人ラビたちは、女性にトーラーを教えることを「放縫」と規定しました。ユダヤ人男性は、12歳になると公式にトーラーを学び始めます。当時、ユダヤ人女性たちは満12歳になり、生理が始まる年齢になると婚約し、約1年後に結婚していました。男性が学ぶべきこと、女性が学ぶべきことが異なり、女性の領域と男性の領域が異なっていたのです。

だからこそ、マリアは話を聞いて学ぶことに飢えていたのでしょうか。マリアはイエスの教えを聞いて学ぶ席に座ることを選びます。女性に許された領域を超えて、禁止された領域に入ることは勇気が必要なことです。マリアは勇気のある女性でした。マリアは決して受動的または静かな人ではありません。

#### 5. 1世紀のユダヤ女性たちの超越

では、マルタとマリアの超越は、彼女たちが特別だったから可能だったのでしょうか？違います。実際、1世紀のユダヤ女性たちに関する最近の研究では、当時の女性に対する差別と禁止が明白であったにもかかわらず、文献資料、碑文、パピルス、考古学資料などを通じて、ユダヤ女性の中にも会堂の指導者、財政的に独立した地主、実業家、そして宗教教育を身につけてトーラー研究に献身した女性が存在したことが明らかになりました。女性に許されていない領域を選んだ女性たちが、1世紀、マルタやマリアのほかにもたくさんいたということです。

そして、ローマ書16章でパウロが挨拶した教会指導者の1/3は女性です。時には働き手(diakonos)や執事/牧師(deacon)、保護者や同僚として、使徒の中で優れた者として、主の中で多くの苦労をした者として、パウロと共に閉じ込められた者と呼ばれた女性たちは、境界を越えて活躍した女性の弟子たちの人生を私たちに伝えてくれます。

さて、2千年が経った今日、私たちは今、どのような禁止と挑戦に直面しており、何に挑戦していますか？

#### 6. 私たちの超越

今日の私たちにも、目に見えても見えなくても、さまざまな障壁が存在します。その中の一つが教会の意思決定過程に女性たちが参画する問題です。私が属している基督教大韓メソジストでも同じです。

メソジスト派では2016年選出職議会代表に「女性と50歳未満」各15%割当が「義務化」されました。1974年に女性宣教会全国連合会が女性割当制(gender quota)を発議して以来、42年ぶりの「義務化」です。もちろん、発議から10年後の1984年に条件付き割当制が導入されましたが、「できるだけ30%」だった条件付き割当制は「守らなくてもいい条項」でした。15%と半分に減ったにもかかわらず、割当制の義務化以降、選出職総会の女性代表は3倍に増えました。しかし、8年が経った今も「反発・反感(backlash)」は相変わらずです。女性の割り当て義務条項の前に、あっけなくも「資格者がいるなくて選出が不可能な場合を除いて」という但し書きがついているからです。“男性と50代以上に対する逆差別”という意見も毎回出てきます。

我々が塀を乗り越える、超越はこれからも続くでしょう。教会共同体構成員の60%は女性なので、健康な教会の意思決定過程になるにはまだまだ足りないからです。「良い方を選んだから取り上げてはならない」イエスがおっしゃったように教会女性たちはずっと垣根を越えて、塀の外に出るでしょう！

#### 7. 連帯する女性たちの超越

女性たちが塀を乗り越える超越は、お互いの手を取り合う連帯が必要です。個人の超越はピカッと光る1つの星ですが、大きな流れを変えるには「連帯」が必要です。歴史から忘れ去られ消えた女性たち、常に壁を越えるために決然と生きなければならなかつた先輩たちを憶えることが連帯の始まりです。

イエスは姉マルタの要請に、「マリアが『もっと』良い方を選んだ」とおっしゃらず「マリアは『良い方を選んだ』とおっしゃいました。

塀を越えて新しい道を切り開く人々は、お互いを支え合い、支持し、お互いを満たしていかなければなりません。塀を越えるために私たちが先に完全になる必要はありません。私たちはお互いの長所を褒め合い、お互いの短所を埋めていかなければなりません。時に倒れても、時に失敗しても、時にまた壁にぶつかったとしても、私たちはお互いを支え合い、新しい道を歩んでいかなければなりません。それがイエスと初代教会共同体が私たちに示した道であり、教会女性の先輩たちが歩んだ道であり、私たちが歩む道です。

#### 8. 隣人への女性たちの連帯

そして、私たちは私たちを阻む壁、私たちを閉じ込める塀を越えて、神が導く場所に共に行かなければなりません。そこは、私たちの社会で苦しんでいる隣人がいるところです。神はすでにそこに行っておられます。

私たちをそこに行かせないようとする壁がたくさんあります。時に、それは安全な箱舟の外に出たくないという恐怖かもしれませんし、人生の苦難、苦しむ隣人に直面したくないほど私たちもまた大変だからかもしれません。時には神が教会の建物の中にしかおられないという信仰も私たちを塀の中に安住させます。

マルタとマリアの話の直前に、イエスは隣人愛について、善きサマリア人のたとえ話をしています。ユダヤ人がサマリア人をどう思っていたかは、皆さんもよくご存知だと思います。ところがイエスはそのサマリア人がむしろユダヤ人を助けたこと、「私を敵としていた人が困難に陥った時にも快く手を差し伸べるのが隣人愛だと」、隣人愛はこうすべきだと言われたのです。

私たちは、時に善きサマリア人として、時に捨てられたユダヤ人として、私たちを必要とする人々、いや私たちが必要とする人々の側に立って一緒に雨に濡れなければなりません。お互いの冷えた手を取り合って、温かい温もりを伝えなければなりません。

まさにこれが禁止と差別の壁を越え、互いに手を取り教会と世界を生かしてきた女性たちが今すべきことではないでしょうか？

・現在、教会女性として直面している壁はどのようなもので、どのような超越（乗り越えること）が必要でしょうか？

・在日教会女性の多様性は何ですか、連帯するために必要なことは何ですか？